2023 年度卒業設計優秀作品 大学の部

金賞

カイロスの靄

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース　小濵 嘉耶

銅賞

穹　－空から考える空間設計のありかた―

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース　金子 千裕

銅賞

泛ぶ記憶の箱舟

室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース　森 晧星

2023 年度卒業設計優秀作品　短大・高専・専門学校の部

金賞

気づきの立方体モデル－不登校児童・生徒の現状から考えるこれからの学びの場

釧路工業高等専門学校創造工学科　三橋 優祐

金賞

季々紡ぐ、都市の杜　－都市と自然を、柔らかく繋ぐ建築を提案する－

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科　遠藤 綾子

銀賞

～藍で人をつなぐ～「道の駅おうめ」

釧路工業高等専門学校創造工学科　右田 孝太

銅賞

洄結　～市街地と自然をつなぐ渡し場の計画～

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科　山川 愛良

2023 年度卒業設計優秀作品　工業高校の部

金賞

Break spot

北海道旭川工業高等学校建築科　大西 葉月

銅賞

ホテル藤の花

北海道函館工業高等学校建築科　山口 心愛

銅賞

商店街風商業施設　－アーケードが紡ぐ地域の和

北海道函館工業高等学校建築科　池野 芽久

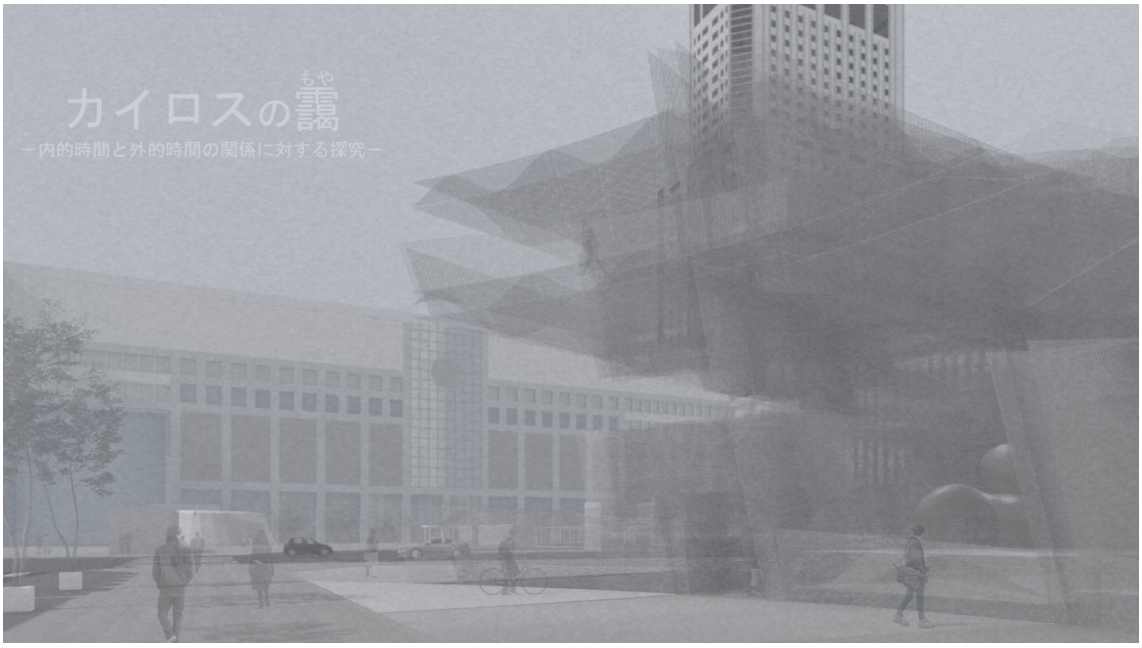
銅賞

warm comfort　～四つの一巡り～

北海道旭川工業高等学校建築科　山本 幸輝

2023 年度卒業設計優秀作品

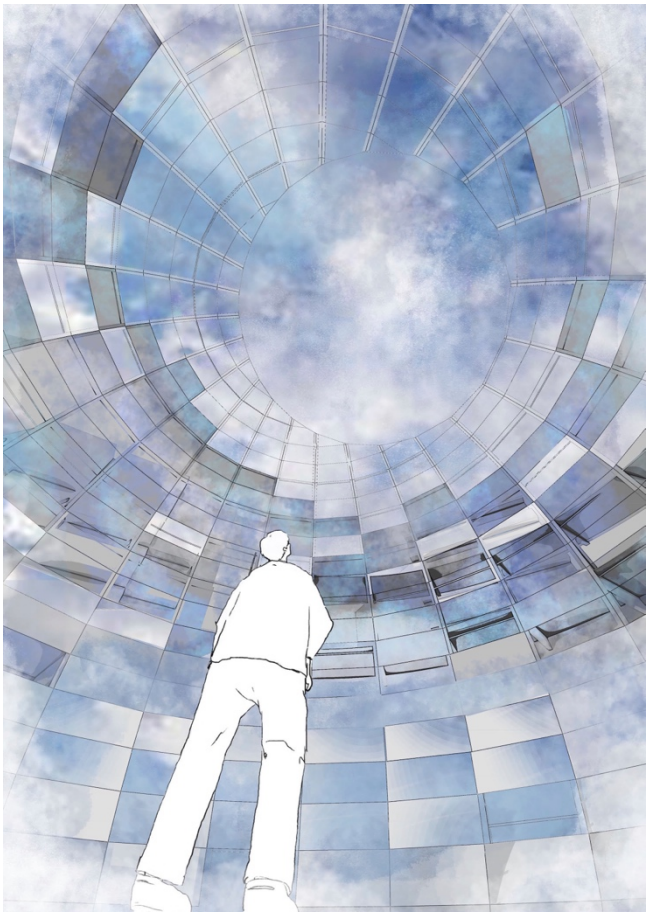
■大学の部
≪金賞≫
カイロスの靄
小濵　嘉耶
北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



人間が生きるということは時間軸の中に存在していて、そこには内的時間と外的時間が交差しその両時間の中で我々は生きている。
その関係が日常の都市の中に受動的に作られるのであればより豊かな毎日を過ごせるのではないかとの考えで今回の計画がなされた。人々が公共交通機関を利用するために外的時間と内的時間の関係が希薄な札幌駅前の空き地にあえて「靄」的空間が展開され、メタルファブリックと称すメッシュのレイヤーが重なり、メッシュとの距離あるいは居場所によりさまざまな透過の変化と時空間を与えてくれる。この空間を通過するあるいは浸ることでモノローグから抜け出しダイアローグの世界へと自然誘導されるというコンセプトに共感する。
最高位にふさわしい巧みな作品である。（小西彦仁）

2023 年度卒業設計優秀作品

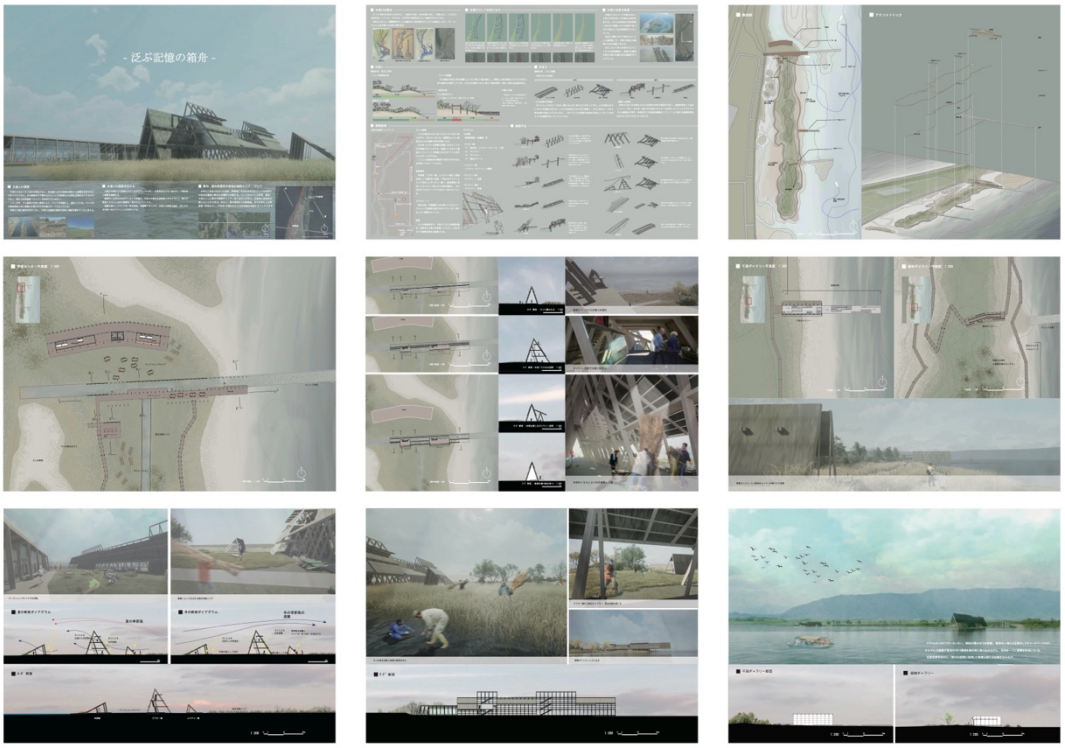
■大学の部
≪銅賞≫
穹　－空から考える空間設計のありかた―
金子　千裕
北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



人と空の関係を徹底的に追求し、装置としての空間に落とし込むことができた力作である。物理的にも精神的にも空の存在が日常から遠ざかっていることに問題意識を感じているところから発想しているのだろうが、歴史的に空と人がどのようにかかわってきたか、という分析や地下と空をつなぐ場所の設定、日常の動線で空を感じさせるシーン設定などにこの装置を実現させようとする強い意志を感じる。また、この装置を構成するパネルの素材選定により、反射、透過などの効果により多様な空を見せようとする技術的な検証も評価に値する。（菅原秀見）

2023 年度卒業設計優秀作品

■大学の部
≪銅賞≫
泛ぶ記憶の箱舟
森　晧星
室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース



木曽川の古くからの治水の歴史の中で形成されたケレップ水制群と、豊かな自然環境である「ワンド」が近年荒廃化、減少化している中で、古くからの土木技術を再考し、木曽川の風景について、生態系を乱さない形式で体感する施設の提案である。
古来より工夫され治水の中で生まれた技術を組み合わせ、河川の水位により時に水没し、また自然に復元される自然環境と、ヨシで葺かれた切妻の初源的形、ヨシが草原に浮かぶ風景は、時空の中で一体化する建築となり、幾重の歴史（技術・妻材・営み等）と記憶を現代想起され、歴史と風土をつなぐ計画となっている。
日本の初源的建築群は意匠的にも固有の力を感じ、この優れた作品を銅賞とする。（遠藤謙一良）

2023 年度卒業設計優秀作品

■短大・高専・専門学校の部

≪金賞≫

気づきの立方体モデル－不登校児童・生徒の現状から考えるこれからの学びの場

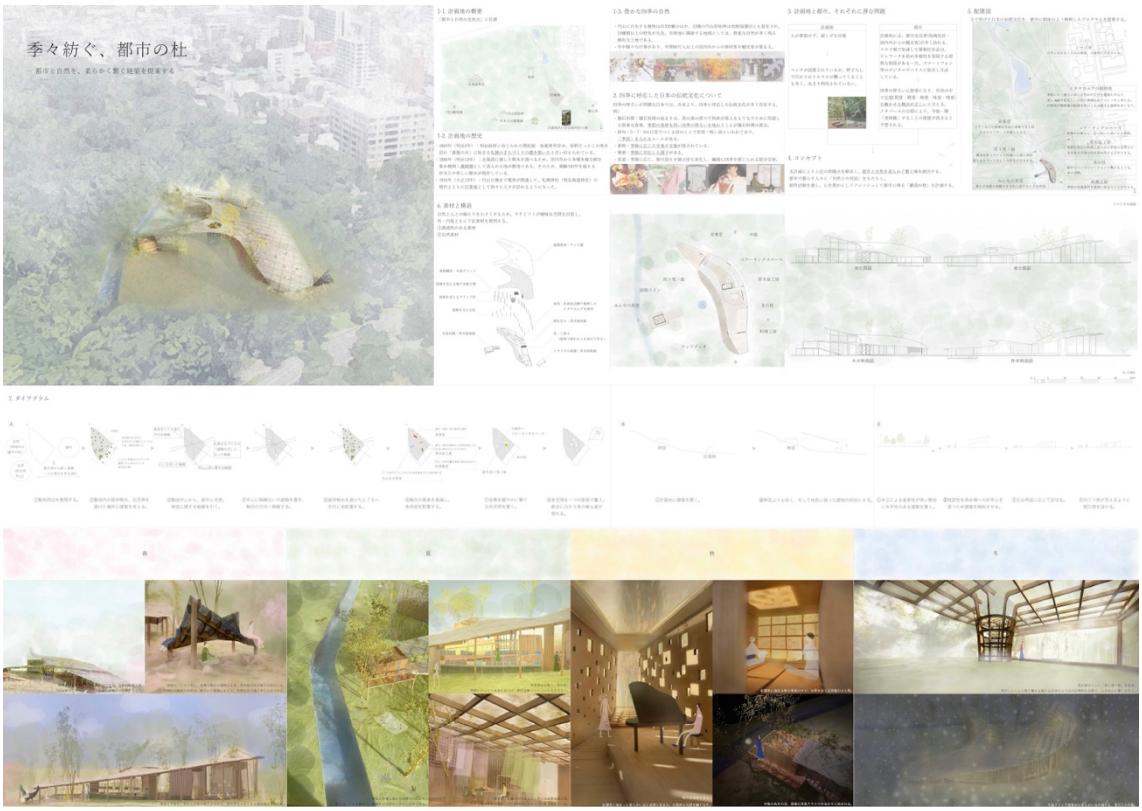
三橋　優祐

釧路工業高等専門学校創造工学科

今回の卒業設計の作品群の中で大学も含めて一番の作品レベルであったように思う。形態のしなやかさ、躍動感、分析力、コンセプトの進行していく力、全て何か新しいものを感じた。立方体が補佐的なリボン状の道路によって立体力をさらに高める方法は思わず頷けるものがあった。異物ともいえるこのリボン状の道路（空中回廊）は単純な立方体や形態を有効につなぎ豊かさの別次元をつくりあげている。そのもつ影もなんとなく木々と融解し更に新しい風景をつくりだしている。（中山眞琴）

2023 年度卒業設計優秀作品

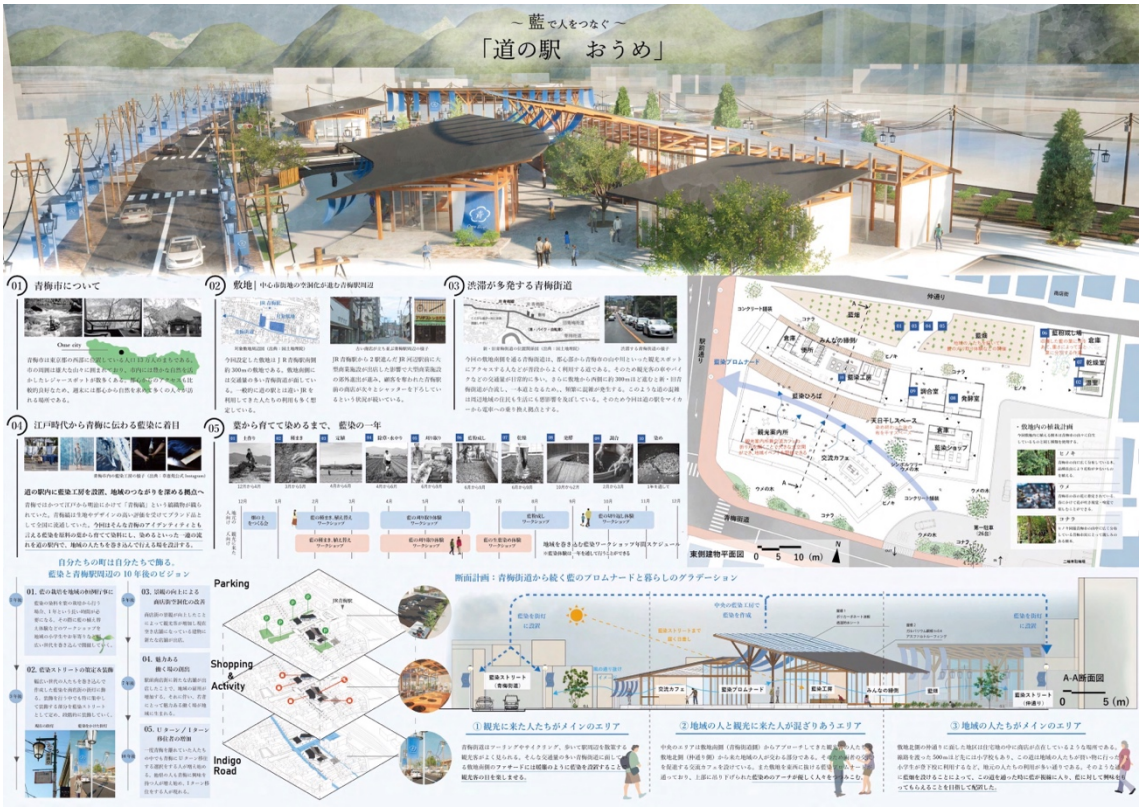
■短大・高専・専門学校の部
≪金賞≫
季々紡ぐ、都市の杜　－都市と自然を、柔らかく繋ぐ建築を提案する－
遠藤　綾子
北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



札幌の円山公園は、市民によって作られた歴史ある都市のフリンジである。そこでは、様々な歳時記の舞台となっており、札幌ならではの歴史と文化を感じる場となっている。本計画は、この公園の特徴に加え、日常の活動にも目を向け、現代の生活に相応しいものにアップグレードすることを提案である。自然になじむ柔らかな形状と内外での活動が公園の日常を市民に開放するだけでなく、公園の魅力がより高まるよう、いくつかの場の提案もある。都市と自然に限らず、人と人、文化と歴史をも柔らかく繋ぐことにもなっている点が優れている。さらに美しい表現により簡潔にまとめられた力量は大変高く、ここに短大・高専・専門学校の部の金賞とする。（斎藤文彦）

2023 年度卒業設計優秀作品

■短大・高専・専門学校の部
≪銀賞≫
～藍で人をつなぐ～「道の駅おうめ」
右田　孝太
釧路工業高等専門学校創造工学科



青梅の特産であった藍染の工房を中心に、中心市街地空洞化や交通渋滞などの都市的課題と、過疎化や高齢化などの社会的課題を、建築の力により解決しようとする「道の駅」の提案である。人々を優しく受け入れるような円弧を用いた優しい建築形態、木造によるシンプルでありながらも懐かしい印象を与える空間などに優れた造形力が感じられた。また、建築だけではなく、藍染ストリートの計画や外構・植栽まで丁寧に描くなど、細部にこだわる誠実な設計姿勢が読み取れた。さらに、１０年後の道の駅と青梅駅周辺とあり方まで提示するなど、地域への思いが感じられた。上記のような広範な提案を、分かりやすくまとめ上げたプレゼンテーションも評価に値する。以上の点より、銀賞がふさわしいと判断した。（小倉寛征）

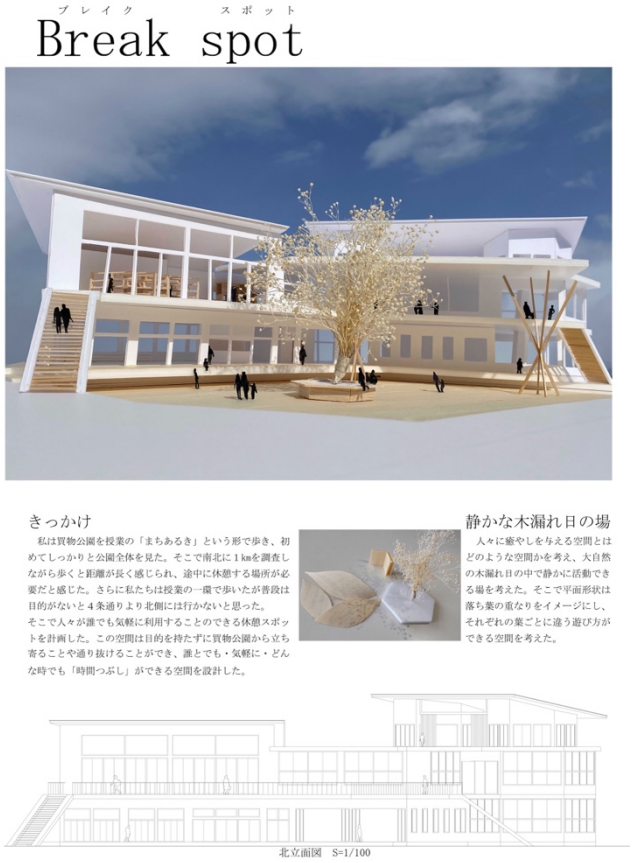
2023 年度卒業設計優秀作品

■短大・高専・専門学校の部
≪銅賞≫
洄結　～市街地と自然をつなぐ渡し場の計画～
山川　愛良
北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

石狩の茨戸川の河口近くの花川側の市街地と生振川の農地の両岸に計画され、
自然を保全するための施設をメインに両岸を行き来する渡し船の船着場としての機能も持たせている。この場所の海や植物などを保全しながら計画された建築は、自然保護に注意深く着眼しまた建築物のシルエットを極力消すための細かな操作など建築全体からディテールまで周到に計画されている。水彩によるプレゼンテーションドローイングもこの計画にふさわしく感じた。しかし残念ながら建築と自然の融合や対岸の建築どうしの関係が弱く銅賞になったが今後の成長が楽しみである。（小西彦仁）

2023 年度卒業設計優秀作品

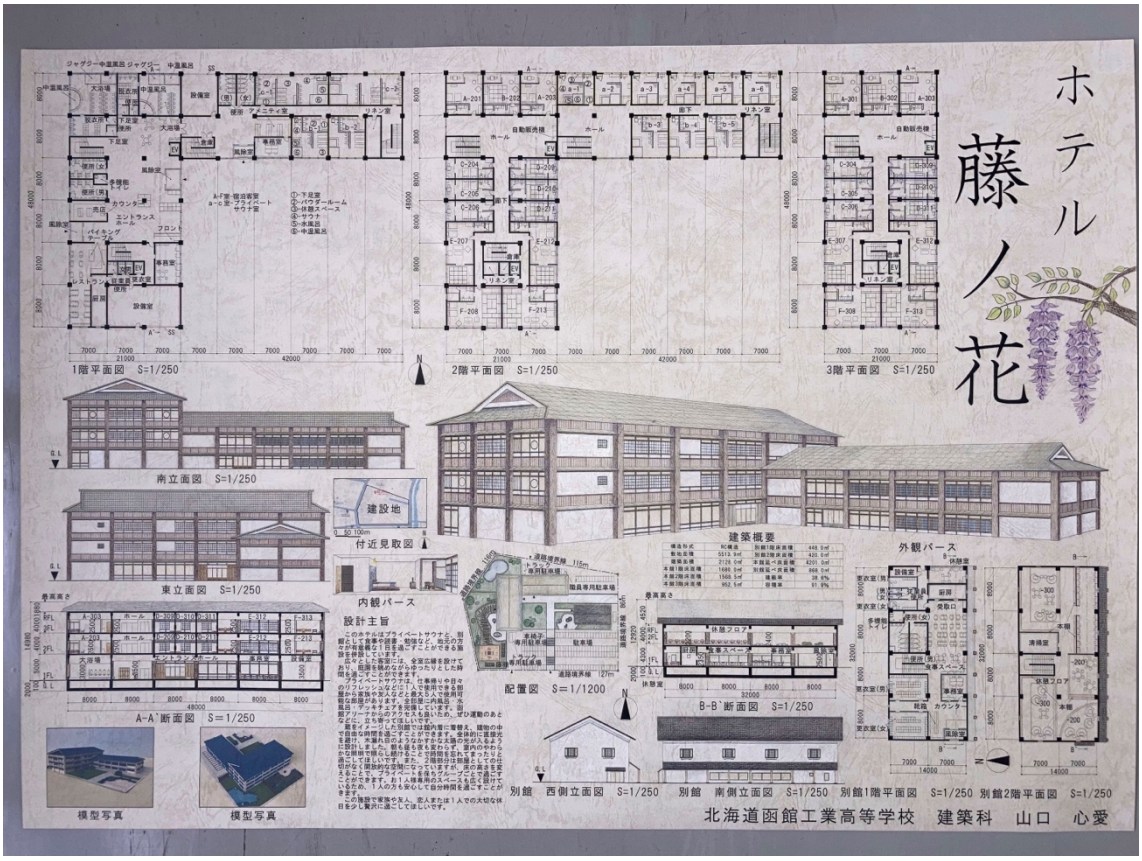
■工業高校の部
≪金賞≫
Break spot
大西　葉月
北海道旭川工業高等学校建築科



旭川買物公園に隣接する図書機能を備えた休憩施設である。4 条通り以北になかなか人がいかないという認識を背景とする発想だが、人を呼び込む動線計画、内部空間のレベル設定が巧妙であり、建築計画としての空間の骨格がしっかりしている。樹木を中心とする広場、それを囲むように建つ施設に人が集う光景が想像され、この建築がまちの一つの光景として定着するように思われる。施設の建築計画を超え、まちづくりの視点でとらえているところが高く評価された作品である。（菅原秀見）

2023 年度卒業設計優秀作品

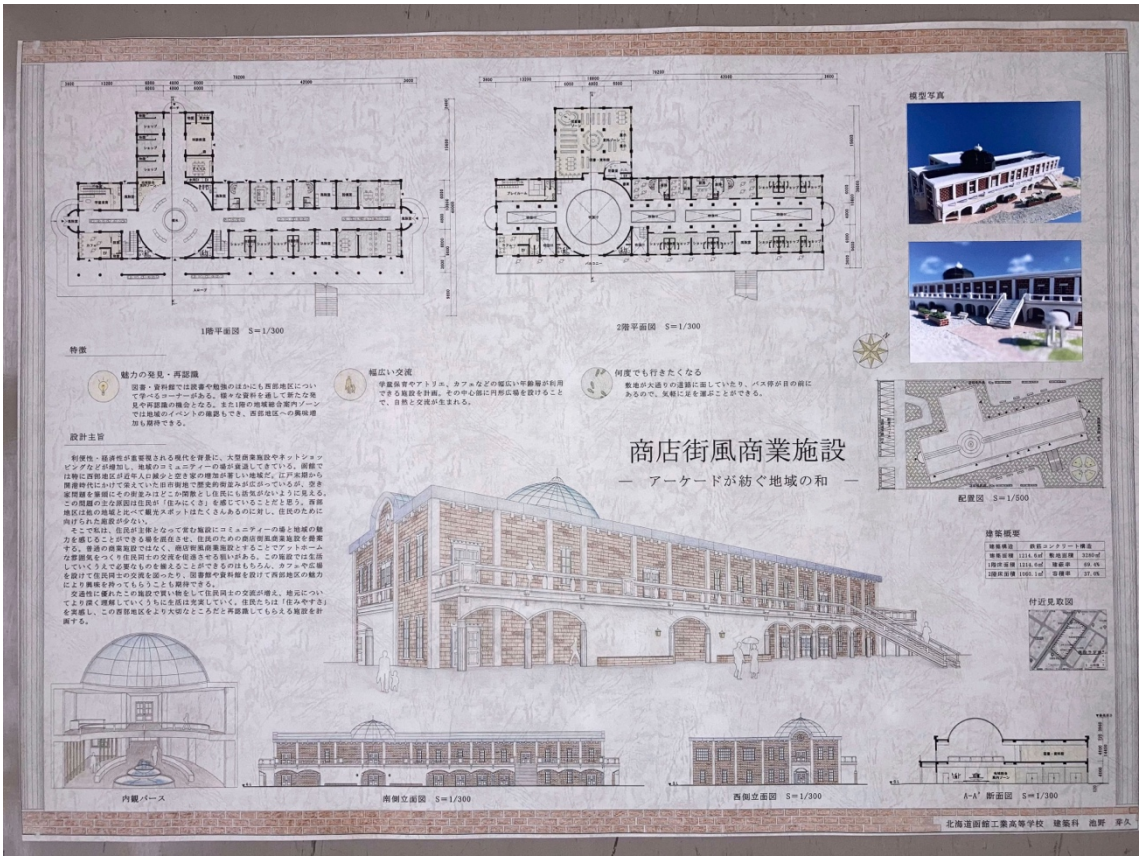
■工業高校の部
≪銅賞≫
ホテル藤の花
山口　心愛
北海道函館工業高等学校建築科



函館市内に計画された滞在型の温泉宿泊施設である。プランは、庭を縁側から望む環境に宿泊室を設け、パブリックゾーンはサウナゾーンとプライベートゾーンに分けられ、明快なプラン構成となっている。
外観は畳を有する客室にふさわしい入母屋の屋根と、外壁に真壁的構造が強調され、開口部廻りの格子と障子による趣きのある表現が、藤棚と相まって館名にふさわしい計画となっている。蔵のイメージの別館もゆったりとした時間を過ごす工夫がなされ、宿泊施設のコンセプトをしっかり計画されており、銅賞にふさわしい表現として評価する。（遠藤謙一良）

2023 年度卒業設計優秀作品

■工業高校の部
≪銅賞≫
商店街風商業施設　－アーケードが紡ぐ地域の和
池野　芽久
北海道函館工業高等学校建築科



函館市西部地区が観光地化しつつも生活の場としての利便性が低くなっていることに対して、地域住民の生活や交流の場となるような施設の提案である。地域の景観に配慮した外観や、商店街となるような商業施設の計画に加え、学童保育やアトリエ、カフェなども入る複合施設となっている。地域の課題に対し、真摯に向き合っているだけでなく、各図面やパース、模型などどれもしっかり表現され、まとめられている。高等学校の卒業設計として、優れていることから、「工業高校」の部の銅賞に相応しいと判断した。（斎藤文彦）

2023 年度卒業設計優秀作品

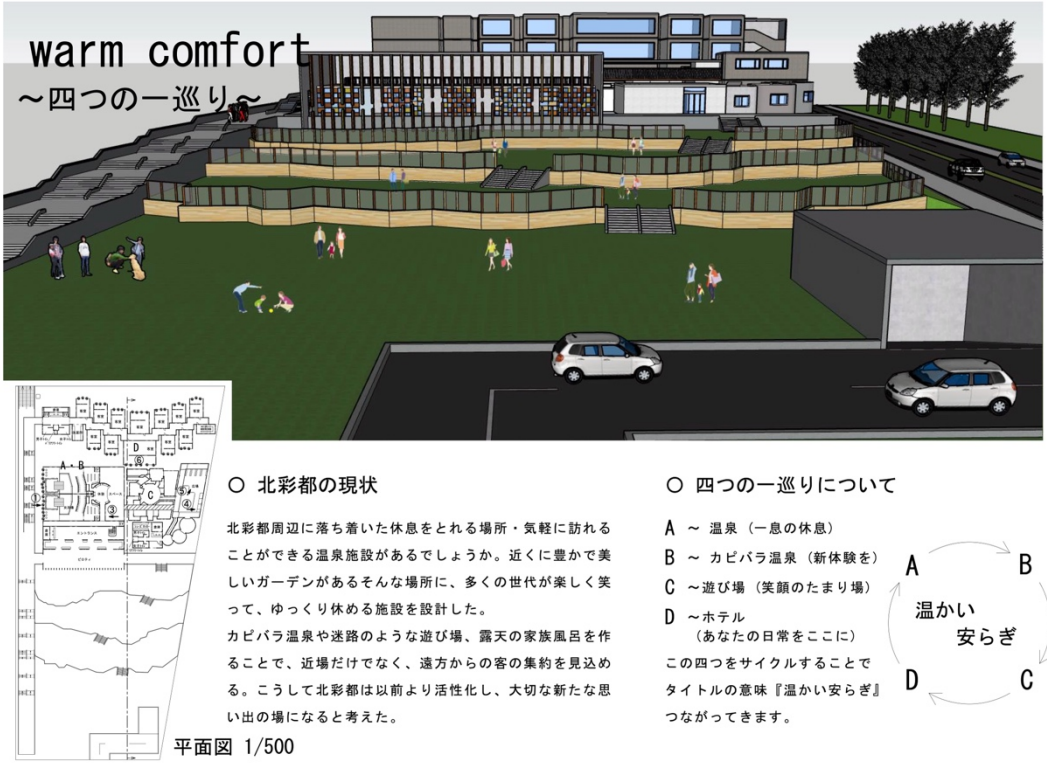
■工業高校の部

≪銅賞≫

warm comfort　～四つの一巡り～

山本　幸輝

北海道旭川工業高等学校建築科



気軽に集える場所が少ないと感じた北彩都における、ゆっくりできる温泉、カピバラとの触れ合いの場、若い人たちのプレイスペース、家のように寛げるホテルといった、４つの機能の複合施設の提案である。大規模な建築であるが、敷地に高低差や大階段を設けることで、親しみやすいスケール感と周辺環境への配慮を実現している。一方で、周辺からの視線を考慮してデザインした露天風呂、高低差や様々なスケールの空間を利用した広場、居心地の良さを考えて素材選定した内装など、細部までデザインされている。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断した。（小倉寛征）